

## 1、協会のあゆみの概要

当会は 1994 年（平成 6 年）2 月に高知市で任意の市民団体『高知県生態系保護協会』として設立。平成 9 年に高知県より社団法人に認可。2005 年（平成 17 年）7 月に名称を『社団法人生態系トラスト協会』に変更。公益法人の制度改革に伴い、2013 年（平成 25 年）4 月に『公益社団法人』に変更して認可された。2014 年（平成 26 年）7 月に、四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンターがオープン。2016 年（平成 28 年）4 月 1 日より主たる事務所を高知市から四万十町に移転し、事務所機能とネイチャーセンター機能を統一して運営にあたってきた。2016 年 8 月には、下道地区に取得したトラストの森に隣接して、株式会社王子ホールディングスが所有する 260ha の社有林と『ヤイロチョウ保護協定を結んだ。さらに、2017 年度からは、株式会社山崎技研のご支援を得て、『自然林再生プロジェクト』の一環として増えすぎた野生シカから自然林を守る調査研究や広葉樹の植樹活動。さらに、2020 年 2 月からヤイロチョウが生息する森を中心に、エコツアー地域としての地域活性化を高めるため、原木シイタケの森作りなどの取り組みにも着手した。

この間、環境省（四国のツキノワグマ個体群調査）、農水省（四国で越冬するツル類の保護調査）、高知県（国道に隣接するクマタカ営巣環境調査、鳥獣保護区調査、愛鳥モデル校の指導・愛鳥ポスターの審査等）、地球環境基金（ヤイロチョウ保護調査）、イオン環境財団（国際的なヤイロチョウ保護連携）、日本財団（ヤイロチョウを通じた環境教育）、日本グラウンドワーク協会（環境に配慮した人材育成事業）、子どもゆめ基金（環境教育教材作りや自然体験バスツアー）等から受託や助成金を得て、各種調査・環境教育事業等を進めてきた。

こうした 25 年間の活動の成果として、2020 年（令和 2 年）3 月までに、ヤイロチョウ保護区や生態系保護区の森として高知県内各地にナショナル・トラスト手法で取得した森の面積は合計約 303,6ha となった。

さらに、ヤイロチョウ保護に関する記念すべき成果として、『高知四万十の森 幻の鳥ヤイロチョウを追う』という 1 時間番組が、NHKBS プレミアム『ワイルドライフ』で 2020 年 9 月 16 日に放映された。

## 2、ヤイロチョウ保護活動

### 1) 新たな保護区を取得

故渡邊士乃武夫人の渡邊玲子氏より、2019 年 8 月に四万十町下道地区に新たな土地（ヤイロチョウ保護区の森）〇ha を取得した。その結果、当協会のトラスト地は合計 303,6ha になった。

### 2) 大規模風力発電計画への対応

2018 年 12 月に、四万十ヤイロチョウの森から半径 10 キロ以内に連なる標高 550m の尾根筋に、高さ 120m の風力発電施設を 49 基設置するという、国内最大級の大規模風力発電計画が表面化した。2019 年 2 月にはオリックスの委託を受けたアセス業者の日本気象協会と第 1 回目の意見交換会を行い、5 月には風力発電計画の中心地に位置する国道 439 号線の杓子峠に近い、旧大正町が設置した「ふるさとの森」で、当協会が募集した住民参加型ヤイロチョウ調査参加者と、大規模風力発電に対する学習会・意見交換会を行った。

2019 年 8 月 5 日には、オリックスに対して、「ヤイロチョウに対する安全が科学的に明らかになるまで同計画を進めるべきではない」という趣旨の意見書を提出した。

また、この行事に参加した親子が中心になって設立された「ふるさとの自然を守る会」が、大規模風力発電に対する反対署名活動が行ったので当協会も協力した。その結果として、9 月 18 日に同会が集めた 1 万余の署

名を持参して四万十町長あてに要望書を提出した際にも、同行して当協会の考え方を説明した。

### 3) 「ヤイロチョウのさえずる町づくり条例」の制定を四万十町と町議会に要望

前記の要望書は、大規模風力発電に反対することに絞った趣旨のものであり、四万十町に合併前の旧大正町に対して当協会から要望していた「ヤイロチョウのさえずる町づくり条例」の制定を求める内容をほとんど含んでいなかったため、当協会の役員である池田十三生氏、市川敏英氏や、窪川原発反対で全国的に大きな成果を挙げた島岡幹夫氏らと共同で、『ヤイロチョウのさえずる町づくり条例』の制定を求める町長あての陳情書・町議会議長宛の請願書を、2019年11月18日に提出した。その結果、2020年3月19日に開催された町議会で請願書が採択され、町執行部に対して条例制定を審議する委員会の設置を求めるものとなった。

### 4) アメリカカリフォルニア州で大規模風力発電を視察

2019年11月末～12月初旬に、当協会と事務局団体の中西悟堂協会会員有志4名が、アメリカカリフォルニア州に設置されているという大規模風力発電風車2基を視察した。ゴンザレスという地域に設置された2基の大規模風力発電設備は、世界で100羽しか生息していないカリフォルニアコンドルへの影響を調べた上で、コンドルへの影響が無いという地域に設置したものであるが、小鳥類などの渡り鳥の安全を脅かすものであることは明らかと思われた。視察調査の結果は、12月10日発行の『森のしずく』132号、3月10日発行の133号に掲載された他、2020年5月に発行予定の『野鳥居』10号にも掲載される予定である。

### 5) ヤイロチョウ保護に関連した特記事項

2020年5月15日～7月20日まで、NHKBSプレミアム「ワイルドライフ」の取材に協力した。その結果、2020年9月16日放送の、『高知四万十の森 幻の鳥ヤイロチョウを追う』という1時間番組として、NHKBSプレミアム『ワイルドライフ』で放映された。

## 3、その他の四万十ヤイロチョウの森&ネイチャーセンターの事業

### 1) 自然林再生事業の推進

令和2年度は、高知県観光課や四万十町の補助を受け、ヤイロチョウ保護条例を結んでいる王子ホールディングスの社有林内に、標高766mの四国電力高圧線鉄塔まで通じる自然観察歩道を設置した他、ワンダーランドの森内に「見晴らしの丘」や「原木シイタケ体験の森」などを整備し、4カ所に案内看板を設置した。また、ソフト事業として、「エコツアーガイド養成講座」を開催したが、新型コロナウイルス対策のため、最終回に予定していた「コスタリカのエコツアー」の講演会は、ネイチャーセンターから当協会の公式ユーチューブで放映した。

### 2) 生きものふれあい鶴田公園を管理

高知市にある鶴田公園の草刈りや花壇整備については、最近まで地域住民が自主的に管理していたが、高齢化などにより、草刈り管理も不十分になってきたため、四万十町のネイチャーセンターより草刈り機を軽四トラックで運んで整備したが、今後の活用・管理体制に課題が残った。

### 3) 会報誌『森のしずく』の発行について



会報誌『森のしずく』は、A4版8ページ～12ページで、130号（夏号）、131号（秋号）、132号（冬号）、133号（春号）を、各1000部～2000部発行し、正会員、サポート会員、友の会会員、会友（一口オーナー、募金者）などに対して、それぞれ800人～1800人に送った。

#### 4) 講師の派遣

高知県立北高校からの要請を受けて、5月と1月に、ヤイロチョウ保護の取り組みを紹介する講師を派遣した他、11月16日（土）に大阪自然史博物館で開催された「大阪自然史フェスティバル」では、公開座談会方式でICレコーダーによるヤイロチョウの調査手法について研修会を行い、市民参加型のヤイロチョウの夜間渡り調査への協力を呼びかけた。

また、12月5日～7日まで、東京ビックサイトで開催された「エコプロダクツ2019」の王子ホールディングスブースで開催されたミニ講演会にヤイロチョウの保護PRのために講師を派遣した。

#### 5) 四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンターの運営体制

常勤職員1名とアルバイト等により、日常的な経理事務、ホームページの更新、委託事業の補助、来館者の案内、業務日報の作成などの業務を行った。

#### 4、渡邊士乃武氏の遺産に関する件

2014年にオープンした四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンターをご寄贈いただいた渡邊士乃武氏が2018年5月にご逝去されたことに伴い、遺産を相続された渡邊玲子夫人より滋賀県の山林（1653㎡）と小豆島の山林（331㎡）の寄贈を受けた。また、玲子夫人の要望により、ネイチャーセンターに隣接して（仮称）渡邊士乃武記念ホールを増築する案について検討したが決定には至らなかった。

#### 5、助成事業

1) 昨年に続いて、文部省所管の「こども夢基金」の助成金を得て、「親子で自然体験バスツアー」を春～冬まで4回開催したところ、定員が各40名に足りないにも関わらず、各100名以上の申し込みがあった。

#### 6、その他の委託・補助事業

1) 昨年度は受託できなかった高知県鳥獣対策課「野鳥とのふれあい事業」は、入札金額を下げて受託し、令和元年度愛鳥コンクールポスター展示会、令和2年度審査会、高知市みどりの広場で親子愛鳥教室を開催した。

#### 7、他団体の活動協力・支援事業

1) 共同事務局団体の中西悟堂協会の会報誌『野鳥居』9号を5月に発行した他、8月に福生市で講演会（懇談会）を開催し、今後の中西悟堂協会の活動指針について意見交換した他、中西悟堂協会編『野鳥居』10号を発行する準備に取り組んだ。（発行は生態系トラスト協会）

2) 四国ツル・コウノトリ保護ネットワークの事務局として、西日本で越冬・繁殖するツル・コウノトリ類の生息地保全に関する調査や情報提供を、高知県内と愛媛県西予市に出かけてインターネットによるメーリングリストで紹介した他、1月27日に徳島県鳴門市で開催された四国のツル・コウノトリ情報交換会に出席した。

